

# シンポジウム 「越境するナラティブ—— 他／多言語による文学は何 を紡ぐか——」

ナラティブ（語り）が言語や国境  
を越えるとき、何を失い、何を受  
け継ぎ、何を生み直すのか——。  
文学作品に探る。

開催日：2026年2月14日（土）

13:00-17:00

会場：富山大学五福キャンパス  
人文学部棟3階 第6講義室

問い合わせ先：富山大学人文学部 秋田研究室  
[akita@hmt.u-toyama.ac.jp](mailto:akita@hmt.u-toyama.ac.jp)

## 登壇者・タイトル

1. **西成彦** (立命館大学名誉教授：ポーランド文学、比較文学)  
「旅するひと、旅する言葉」
2. **秋田万里子** (富山大学：ユダヤ系アメリカ文学)  
「消えゆくものに息を吹き込む——『ヒストリー・オブ・ラブ』における翻訳と継承」
3. **中里まき子** (岩手大学：現代フランス文学)  
「シュヴァルツ＝バルトの小説が伝えるユダヤ人の記憶と黒人の記憶」
4. **福島亮** (富山大学：フランス語圏文学・思想)  
「環大西洋アフリカ人強制移送 (DTS)」の記憶—アフロトロープを手がかりに」
5. **水野真理子** (富山大学：日系アメリカ文学)  
「日系アメリカ文学史の再考—こぼれ落ちた文学活動を問い合わせ直す」
6. **日比嘉高** (名古屋大学：日本近現代文学・出版文化史)  
「越境する文学は何に支えられていたのか——帝国日本の出版文化から考える」